

表現と人種問題

西川 愛梨沙

もくじ

- ①スプラッシュマウンテン題材変更
- ②ディズニー映画における人種差別表現
- ③日本人が差別の対象となったディズニー作品
- ④リトル・マーメイド主演に黒人俳優起用で賛否
- 【番外編】ディズニーがアナウンスの文言を変更
- ⑤映画モンスターハンターに人種差別的表現？
- ⑥ジョンソン・エンド・ジョンソンが美白化粧品の販売を中止

①スプラッシュマウンテン題材変更



- ・ ←スプラッシュマウンテンの原作 (南部の唄)
- ・ 白人の少年と農場で働くリーマスおじさんの交流を描いた物語
- ・ Black lives matterをきっかけに「南部再建時代を美化した」と批判の対象に

①スプラッシュマウンテン題材変更



- ・ 南部の唄は現在DVD化・動画配信サービスもされておらず幻の作品に
- ・ アトラクションはリーマスおじさんが語るおとぎ話が舞台
- ・ 新題材は「プリンセスと魔法のキス」
- ・ 題材変更は妥当？やりすぎ？

②ディズニー映画における差別表現(1)

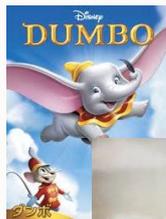


- ・ 「おしゃれキャット」 (1970)



- ・ ←アジア人を彷彿とさせる猫が著でピアノを弾いている

②ディズニー映画における差別表現(2)



- ・ ダンボ (1954)
- ・ 独特なアクセントを持つカラスの集団が登場
- ・ アフリカ系アメリカ人に対する人種差別的なステレオタイプを表現していると指摘



③ 日本人が差別の対象となった作品



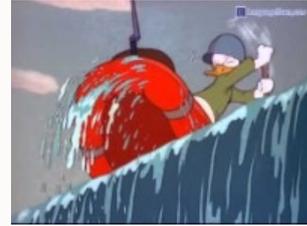
・「Commando Duck」(1944)
(奇襲部隊員のアヒル)

・"Japanese custom say always shooting the man in the back, please"

→「日本の習慣ではこう言います。人を撃つときは必ず後ろから撃て」



③ 日本人が差別の対象となった作品



④ 実写版リトル・マーメイド



- ・アリエル役に抜擢されたアフリカ系アメリカ人歌手のハリー・ベイリー
- ・キャストिंगに対してネットでは賛否の声も
- ・#NotMyArielというハッシュタグまで
- ・元の作品の要素に社会的な進歩性を加える動き？

【番外編】 ディズニー、アナウンス変更



- ・廃止：“Ladies and Gentlemen, Boys and Girls”
- ・現在“Hello everyone”
- ・ジェンダーニュートラルの考えに基づく
- ・ディズニーは社会的動きに敏感？

⑤ モンハンに人種差別的表現？



- ・2020年公開
- ・中国で公開中断に
- ・中国の公開初日の興行収入は519万ドル
- ・「俺の膝を見てください」
- ・「いったいどんな膝をしているんだ？」
- ・「チャイ・ニース」←差別的だと批判
- ・アメリカの古い童謡
- ・“Chinese, Japanese, Dirty Knees”
にかけたジョークと解釈された

⑥ J&Jが美白化粧品の販売中止



- ・販売を中止した美白化粧品の宣伝には「素肌の色よりも白い方がいい」という文言
- ・「白い肌を推奨している」という批判
- ・アフリカでは一部で美白ブーム
→粗悪な美白化粧品による死亡例も
- ・日本のSNSでは販売中止に対して批判の声

↑発売が中止になったシミ消しクリーム

⑥ 花王も“美白”表現撤廃宣言



- 肌の色の多様性に配慮する動きは国内初
- 今後他の企業が追随するか
- 「色の白いは七難隠す」
- 日焼けサロンは差別？

全体を通じた個人的意見

- 過去の映画の差別的表現を削除するなどして「無かったこと」にするよりもその作品は過去から学ぶことができる貴重な資産なのでは？
- アリエル役にハリー・ベイリーが起用されたのは彼女の実力がアリエル役に相応しかったから。可能性を開いた意味で大きな進歩だと思う
- 美白表現に関しては、「白い肌」への信仰が白人由来なのかがイマイチ…
- ご時世的には表現撤廃は妥当…??

